

「期限切れで死なない」の記事を読んで
福田 楓乃

中国で期限切れのとり肉を使用していた事
件が発覚しました。「期限切れを食べても死
ぬことはない」というのは、中国・上海の食
品会社の従業員が言葉です。食品会社は「ハ
ンバーガーチェーン店のチキンナゲットに、
期限が半月も過ぎたとり肉約十八トン混ぜ
こんだり、別のレストランチェーン店に送る
加工肉に期限を七ヵ月過ぎた肉を使ったりし

ていたのです。私はその記事を読んでおどろ
きました。つい最近、そのお店のチキンナゲ
ットを食べていたからです。期限切れのとり
肉が使われていたと思うと、「ヤッ」として「お
そろしくなりました。従業員が言ったとおり、
期限切れのものを食べても、死にはしないけ
れど、いくらなんでもひどい。

七月二十五日の記事によると、外部検査は
あるそうだが、不合格の肉は袋に入れてかく
し、検査終了後にまた取り出して使っていた

らしい。日本の会社は、中国の会社を信らい
して輸入していたのに、完全に裏切られたと
思います。私はチキンナゲツトが、中国でつ
くられていろいろことすら知りません下した。み
んなが食べているんだ。そんな心配をしたこと
もありませんでした。こういう事件が起きた
今、何を信じればよいか分からなくなり、外
食がこわくなりました。

上海当局の調べに対し、責任者が期限切れ
の肉の利用は長年続いた会社のやり方で、上
司の指示だと語ったことも明らかになつたそ
うです。個人ではなく、会社が組織的にやら
せていたのもショックでした。そこにはもう
普通の感覚や常識がないのだと思ひました。

この事件は約三ヶ月かけて、記者が従業員
となつて潜入取材してあはいたことをこの記
事で初めて知りました。強れつなインパクト
のある見出しだったので、くり読んでみて
よかつたと思ひました。

「期限切れで死なない」

鶏肉供給 中国企業 長年のやり方と責任者

【上海共同】期限切れの鶏肉を供給していた中国・上海の食品会社「上海福喜食品」の従業員は、テレビ局の潜入取材で「期限切れを食べても死ぬことはない」と話していた。上海当局の調べに対し責任者が、期限切れの利用は長年続いた会社のやり方で上層部の指示だと語ったことも明らかになった。

【本記1面】この問題は、上海のテレビ局が内部告発をきっかけに、約3カ月にわたって取材し発覚。

内部告発した従業員は期限切れ鶏肉の利用について、問題があると上司に訴えたが解雇された。従業員の一カ月の給与は約2千元(約3万3千円)で、従業員の入れ替わりも激しかったという。

食品会社は、マクドナルドの「チキンマックナゲット」を製造する際に期限が半月過ぎた冷凍鶏肉約18トを混ぜ込んだり、別のレストランチェ

ーンに納品する加工肉に期限を7カ月過ぎた肉を使ったりしていた。既に全面的に生産を停止した。

上海の食品監督当局と警察は合同調査チームを発足させた。当局は期限切れの肉を売るよう指示する内容の書類を

押収したという。上海市の食品管理当局は、同社が納品した食品が流通しないように取引先と協議した。

三鷹ストーカー事件被告

女子生徒殺害認める

東京都三鷹市で昨年10月、私立高3年の女子生徒11当時(18)が刺殺されたストーカー

事件で、殺人と住居侵入などの罪に問われた元交際相手の無職池永チャールストーマ

刺し傷や切り傷があったと明らかにした。

弁護側は冒陳で、被告が幼少期に、母親の交際相手から虐待を受けたことが事件と深く関わったと主張。証拠調べで、池永被告の母親が生徒

(第3種郵便物認可)

中国期限切れ食肉

中国上海市の食品会社「上海福喜食品」が使用期限切れの食肉を使用した問題は「外資系大手ファストフード店なら食の安心・安全は確保されている」との中日両国の消費者の幻想を打ち砕いた。従業員となって潜入取材した上海のテレビ局記者が暴いたのは、利益追求を優先した組織的な規範意識の欠如と、隠蔽体質がまん延した食の現場の実態だった。内部告発をきっかけに約3カ月かけて取材したテレビ局が今月20日に放送した番組を再現した。

【本記2面】

改ざん

「腐ってるのさ」。使用期限を7カ月過ぎたステーキ肉を前に「この肉、青く変色してますよ」と問い掛ける潜入記者に、従業員の一人は平然と受け流した。肉は細かくカットされて包装され、袋に記した新たな使用期限は1年後になっている。この作業は工場の幹部から使用期限を改ざんするよう指示が出たことを受けて実施されていた。

2008年1月に中国製キョーザ中毒事件が発覚し、同年9月には有害物質メラミンに汚染された粉ミルク流通事件が問題化したことを受け、中国では09年に食品安

「大手は安心」幻想

全法が施行された。同法では期限切れの原料の使用を禁じているが、同社上層部は法律無視を命じ、現場も指示に従っていた。

知らぬが仏

コストを下げるため、販売基準を満たさない不合格品の使用も日常茶飯事だった。マクドナルド向けのハンバーガー用のビーフパティ(牛肉)を生産する際には、現場の責任者自身が不合格のパティを攪拌機のラインに投入。疑問を投げ掛ける潜入記者に、この責任

潜入取材 実態暴く

者は「食品工場で働く前は何も知らず、工場で作られた食品をおいしいと思っていた。今や君もマクドナルドなどで食べても、絶対に以前のようにおいしくは感じないはずだ。『知らぬが仏』ってやつさ」とつぶやいた。

チキンナゲットの生産工程でも、不合格品の使用は横行。作業員は「どうせ(不合格品を)混ぜても分かりっこない」と話し、一般的に原料の5%は不合格品を使っていると明かした。

隠蔽工作

取引先の中国のマクドナルドも品質維持のための検査をしていた。ただ前日に通告を受ける工場にとっては、不正の歯止めにはならなかった。生産現場に検査の知らせが入る

と、不合格品を入れたポリ袋をいったん隠し、検査終了後に取り出して使っていた。不正発覚を防ぐため2種類の資料を作成するなど多大な労力をかけていた。一つは事実を記した現場用で、もう一つは外部の検査をくぐり抜けるために数字が改ざんされた資料だ。

「(外部)検査の日だけが正規の生産だ。皇帝がお怒りで視察しても、実際には事前に連絡があり、庶民が列を成して歓迎するようなものだ」。従業員の一人は外部検査の形骸化をあざ笑うかのよう

に、潜入取材の記者に語った。(上海共同) 井源太郎



上海福喜食品の工場内にあ
る、鶏肉加工品の生産ライン
＝20日、中国上海市(共同)